



「この胸の痛みは、誰にもわからない——」

深く刻まれた傷を抱え、壮絶な戦後の半生を送った

6人のハルモニのありのままの声と日常

元「慰安婦」たちが肩を寄せ合って暮らす韓国の「ナナム(分かち合い)の家」。1994年12月から2年にわたって日本人ジャーナリストが6人のハルモニたちの生活と声をカメラで記録した。元「慰安婦」という共通の体験以外、その境遇や歩んできた道はまったく異なるハルモニたち。支えあい、時には激しくぶつかり合う。そんな生活の中で彼女たちは消せない過去の記憶と、抑えられない感情を日本人の記録者にぶつけ、吐露する。あれから20年近く経った今、あのハルモニたちはもうこの世にいない。残されたのは、彼女たちの声と姿を記録した映像だった…。



「確かな存在」を肉声を伝えることの大切さを、この映画で痛感した。

—— 田中優子 (江戸文化研究、法政大学総長)

ハルモニたちを覆いつくしてきた虚無に、わたしはどうしていいかわからなくなった。それでも、この痛切な言葉を聞くことができ、彼女たちの眼差しと出会うことができよかったと思う。土井監督が残してくれたハルモニたちの言い知れぬ記憶のかけらを、わたしの記憶に刻みつける。

—— 瀧川あや (映画監督)

歴史が薄っぺらい紙のように語られてしまう危険な時代だからこそ、今観るべき貴重な作品だ。

語りたくないこと、語れないこと、語ろうとすると涙が止まらなくなる様。

「言葉」では描かれない、紙に書きようのない「証言」がここにはある。

—— 北原みのり (作家)

第一部 分かち合いの家 [124分] ……………

「ナナムの家」で暮らすハルモニたち。過去を忘れるための酒が手放せず荒む女性、息子に過去を知られ悩み苦んだ女性、戦後、結婚もできず孤独に生きてきた女性…。彼女たちの日常生活とともに、「慰安婦」の記憶や戦後の波乱の半生を語る5人の声を丹念に記録。

第二部 姜徳景(カン・ドクキョン) [91分] ……………

ナナムの家の住人で最年少の姜徳景は、「女子挺身隊」として日本に渡るが、脱走したことで「慰安婦」にされる。望まない子を宿し、戦後帰国した彼女の波乱の半生。その体験と心情を姜徳景は絵で表現した。やがて肺がん末期と宣告される。彼女が死を迎えるまでの2年間を記録。



“記憶”
と
生きる

監督・撮影・編集：土井敏邦 編集協力：森内康博 整音：藤口諒太 写真提供：安世鴻(アン・セホン) 宣伝美術：市川桂 配給：きろくびと 2015年/日本/215分 www.doi-toshikuni.net/j/kioku

7月4日(土)より記憶の扉が開く!!

7/4(土)~7/10(金) 10:45/12:50 (別スクリーンで1日2回上映) ※7/11(土)以降も続映

特別鑑賞券 1,500円 絶賛発売中!

当日：一般1,800円/シニア・学生1,500円(学生平日学割1,100円)/UPLINK会員1,300円

★公開初日、各回終映後に土井監督の舞台挨拶あり! トークイベントも期間中開催!

7/5(日) 高橋哲哉さん、7/6(月) 池田恵理子さん、7/7(火) 永田浩三さん、7/9(木) 根岸季衣さん、7/10(金) 金富子(キム・フジャ)さん (いずれも10:45の回上映終了後)

★7/11(土)以降の上映時間およびトークイベントの詳細は直接劇場までお問い合わせ下さい。

渋谷東急本店右側道200m先
渋谷アップリンク
03-6825-5503 <http://www.uplink.co.jp/>

